

植田正治 〈パパとママと子どもたち(1)〉 1949年



©Shoji Ueda Office 2013

植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ

写真であそぶ

2013 **11.23** (土・祝) - 2014 **1.26** (日)

東京都写真美術館

植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ

生涯アマチュア精神を貫き、撮ることを純粋に楽しんだ植田正治とジャック・アンリ・ラルティエグ。彼らの作品は、日本とフランスという文化の違いを超えて、「人間にとって写真とはいったいどんなものであるのか」を私たちに問いかけています。本展は、二人の偉大な写真家の業績を堪能するだけではなく、それぞれの作品が、カメラの機械性を生かした近代写真表現の成熟期において、いかに独特であったか、そして時代性を

捉えていたかを問う初めての試みです。日本とフランスという文化の違いを超えた共通性と二人の独自性が同時に見えてくるはずです。フランスのジャック・アンリ・ラルティエグ財団との共同企画により、ラルティエグが没後フランスに遺した豊富なコレクションと、東京都写真美術館が重点的に収集した植田のコレクションから選りすぐった176点を紹介します。



植田正治
〈後ろ向きの少女〉 1949年



植田正治
〈風船を持った自画像(目)〉 1948年頃



植田正治
〈狼のマスクをかぶった自画像〉 1975年

植田正治 (1913-2000)
UEDA SHOJI

鳥取県西伯郡境町(現・境港市)に生まれる。中学時代に写真に興味を持ち、カメラを入手。32年、写真を本格的に学ぶため上京、オリエンタル写真学校に通い、帰郷後、営業写真館を開業。しかし本業の経営よりも『アサヒカメラ』『写真サロン』等の月例コンテストで入選を重ね、モダンな造形表現をもつアマチュア芸術写真家として活躍し、評価を獲得する。一貫して故郷の山陰地方で撮影を続け、特に鳥取砂丘を舞台に家族らをモデルにした演出写真は、植田のユニークな世界を生み出している。

PLAY WITH PHOTOGRAPHY

写真であそぶ